



VOL 22

2009年4月号

発行2009年3月25日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

山岳通信 米相場の伝達

平野 彰

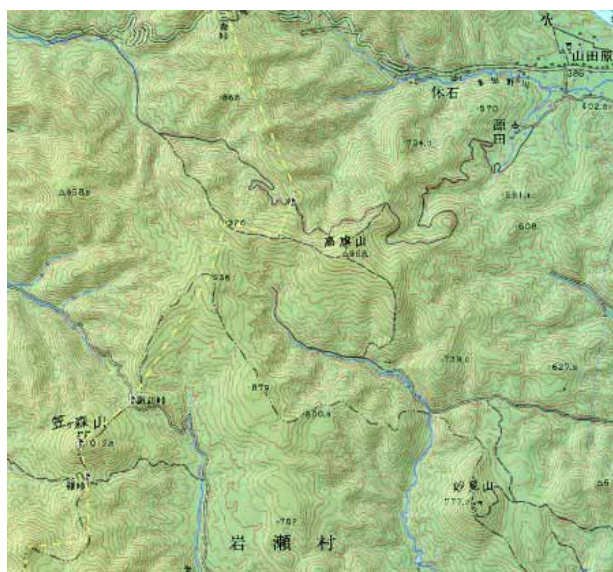
AGC レポート 20 号での「山岳通信の原点」記事からその続きを書いてみたいと思った。例会後の懇親会では夢と現実が入り混じる中、当クラブならではの話題に盛り上がっていた。当クラブには無線の免許を持つ会員が多数いるが、それに頼らず見通しの利く山から山へ光通信的どこまで情報伝達出来るか等など。

山岳通信として最初の目的は軍事用ではなかったかと思われる。お隣中国の春秋戦国時代から日本の戦国時代においても、敵国の動向をいち早く掴むことは最重要問題であった。

ではその情報伝達方法として電気通信など無かった時代には早馬などあったが、速さとしての利点から狼煙がかなり古くから使われていたようである。要所に狼煙台を設置し、敵の人員、向かう方向や移動の速さなど情報の内容によって、煙の色や量、本数などを組み合わせていたようである。処でこの山岳通信の草稿中、平安時代の「のろし」跡かの新聞記事が目についた。宮城県の宮沢遺跡と鶴ノ丸遺跡で出土した平安前期の遺構が「烽」の後であることが分かった。両遺跡とも見晴らしの良い丘の上で、朝廷側の城柵やその近くにあり、蝦夷に対する備えであった。律令では燃やす物はヨモギやワラなどと指定されており、燃やす時間も詳細に規定されていたとのこと。時代が移り江戸時代になると、幕府や大名の公的情報伝達の手段として早馬があったが、民間も含めては早かごや飛脚の制度が発達していった。しかし商人の間では、より早く相場の動向をつかむことが重要になり、狼煙などより手間のかからない旗振りという方法が用いられるようになった。一説には紀伊国屋左衛門が使い始め以後この方法が主流となったということであるが、戦国時代から手旗を使ったとの説もあり、自然発生的に全国に広まったのではないか。江戸時代は米が経済の中心であり、大坂が相場の元になっており、江戸においても商人は翌日にはその動向がわかってい

たようである。大阪では明治 26 年 3 月に電話が開通したものの、当時その電話がつながりにくく、むしろ旗振り通信の方が早かったという。その通信の一区間の距離は時代とともに望遠鏡なども用いられ、地形や気象条件などもあり約 7 里 (28 Km) であった。又夜間などは烽火、松明かりや提灯などが用いられた。旗の振り方は、左右、上下や斜めなどの組み合わせで、相場の上下とその幅まで伝達していたようである。

現在通信に使った山は旗振山、相場振山(ツバノヤマ) 相場山(ツバノヤマ)、旗山、高旗山、などの名称が残っている。これらの山は参考資料の関係で関西中心のものであるが、関東でもこのような名称の山は情報伝達の名残かもしれない。今後それらしい山をつないで光や旗などで通信が可能であるか、試してみるのも面白く、又何かの役に立つかもしれない。



八幡太郎義家が山上で軍旗を高く掲げたという会津の高幡山。

連載 ゆにーく 標識&標石 旧街道を歩くならば (1) 一等水準点



近年 TV の影響が旧街道歩きが流行っている。たまたま旧中山道沿いに住んでいる関係で、確かにそれらしき人が増えた気がする。そこでもし皆さんが歩くならば旧中山道は明治 20 年代に設置した一等水準点が 2 キロおきぐらいに設置されているので、それを確認しながら歩くことを勧めます。熊谷市には一等水準点 500 番、群馬県安中には基準水準点第 3 号という珍しい石もある。もし歩く時は、ちょっとご連絡ください。上尾宿でお茶を出して大歓迎いたします。

(遠山記)

登山道情報の提供について

国土地理院との連携による、登山道情報の提供に関して、日本山岳会と国土地理院との間で、どのように進めていったらよいか、双方の意見交換が行われておりますが、AGCにおいて実施した、奥武蔵・伊豆ヶ岳(vol-20に報告) 丹沢・大山(vol-21に報告)

高尾山(今号報告)等のGPSデータが参考になっております。今後正式な連携運用が開始されるまでに調査マニュアル作成を進め、平成21年度中の実施を目指している。国土地理院の依頼案によると変化情報の優先順位としては、廃道 GPS データ 新設・経路変更の情報 となっており 全国の地域百名山を調査対象としている。特に登山道の**出入口**、**分岐合流地点**を重点的に、GPSの**生データ**(トラックデータ)の提供を望まれている。

行ってました

高尾山と城山 GPS記録山行第3回

今井秀正

夕方から雨天という予報で、今にも降って来そうな空模様の中を6名で高尾山から一度大垂水峠へ下り、あらためて城山へ上り返すという、言ってみれば「御苦労様」な山行であった。なるべく国土地理院の地図に記載されていないコースをGPSで軌跡を記録しながら歩く目的と、高尾山と城山だけでは物足りないので少し負荷がかかるように計画した。しかし雨に降られないようにと足早に歩いたことの方が図らずもメンバー全員に負荷をかけてしまった。

高尾山頂へは「いろはの森」コースと、コース入り口から15分ほど先の日影沢林道が南西向きから西向きに方向が変わる付近のポンプ小屋の脇から谷の左岸中腹(西側)を直登する2組に分かれて向かった。頂上到着はポンプ班が早かったため、無線でいろは班の北野リーダーへ連絡したところ到着間近との返信があり、間もなく合流することができた。

山頂の二等三角点は土俵ほどの大きさに土を盛り上げた真ん中に保護されていて、これ程大切に扱われている二等三角点は少ないと思われる。



高尾山山頂二等三角点にて

小休止の後、紅葉台脇から大垂水峠へ下り、引き続き甲州街道から城山へ登り返したが、尾根は意外に傾斜がきつく、短いとはいえ、「登った気がする」所である。



城山の4等三角点は、売店前のテーブル脇に無造作にアタマを出して、高尾山のそれとは大違い、ちょっとかわいそうな気がした。(左写真)

城山からの下山は日影沢林道の北に連なる尾根上を辿って林道入り口へ向かった。冬は葉

が落ちた明るい路と針葉樹下の暗い路が入り混じり、静かで良いコースだが、あまり利用されておらず、最近少し利用者が増えてきたようである。

日影バス停からバスに乗るかどうかが迷うところであったが、3月7、8日の2日間は裏高尾一帯で梅祭が催されていることから、少々の疲れはあるものの、山行の「おまけ」で小仏川沿いを梅見がてら高尾駅まで歩くことにした。40年ほど前に植えられた満開の梅の紅白は見事なものであった。

結局心配した雨には降られず、高尾駅付近で反省会の後、無事解散することができた。以上

<参加者>(1班)北野、寺田(美)、川口、(2班)鶴田(泰)、寺田(正)、今井(6名)

歩行記録:日影バス停 9:40 - 10:45 高尾山山頂 11:05 - 11:45 大垂水峠 11:45 - 12:15

昼食 - 13:00 城山山頂 13:15 - 14:20 日影バス停 14:20 - 15:30 小仏川畔梅林経由高尾駅

例会の議事録

3月定例会記録

2009年3月4日(水) 19:00~20:00 於JAC集会室B

出席者10名(北野、平野、鶴田(実)、鶴田(泰)、高橋、寺田(正)、寺田(美)、鈴木、川口、今井(順不同))

内容: 2月14日に行われた会山行(大山)の報告。ヤビツ峠班(平野)、南稜班(北野) 3月8日予定の第3回GPS測定山行説明。少々の雨天であっても決行する。(今井) 次回の会山行は延期中の高水三山の惣岳山とし、4月19日(日)を予定する。詳細はAGCレポート19号の例会議事録欄を参照。(北野) 5月のAGC例会は第1水曜日が休日のため翌日7日(木)に変更するので注意願いたい。

終了後は「鯨の家」にて懇親会(10名) 以上 (記録:今井)

お知らせ

次回の例会

日時 2009年4月1日(水) 18:30から

於: 山岳会 ルーム

テーマ: 地形図調査、山行報告ほか

AGCレポート vol-22 2009年3月25日発行

発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com